

Title	動詞の aspect feature について
Author(s)	加藤, 主税
Citation	Osaka Literary Review. 12 P.1-P.15
Issue Date	1973-12-25
Text Version	publisher
URL	https://doi.org/10.18910/25748
DOI	10.18910/25748
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

動詞の aspect feature について

加 藤 主 税

1. 現実世界と言語形式

現実世界（言語使用者の心理的世界を含めて）は、時間経過に従って、連続的に変化してゆくものであるが、これを人は言語によって、その形式に拘束されつつも、有意味的に、断片的に現実世界を切りとって把握している。つまり、映写機による動きのある event を、写真機による、動かないフィルムで表現しようとするのである。その動かないフィルム一枚をここでは一つの state とする。そして(1)のように、その有限の現実の変化の中での state の数を増せば、現実世界の連続的な変化を厳密にかつ正確に表現可能ということになる。

(1) State 1 State 2

そして、ある state とその次に現われる state との間には、必ず変化点が必要である。その state とその変化点に関連する表現形式が aspect である。state に焦点を置く表現を durative aspect といい、変化点に焦点を置く表現を point action aspect ⁽¹⁾ という。

(2) State 1 \xrightarrow{a} State 2 \xrightarrow{b} State 3
(a,b: 変化点)

(2)のように State 1 から State 3 まで変化するうち、State 2 から見て、変化点 a に焦点を置いた表現を point action aspect のうちの ingressive aspect といい、変化点 b を effective aspect という。

(3) He is smoking.

動詞の aspect feature について

(3)のように state には、動作のあるものもあるし、(4)のように動作のないものもある。

(4) He loves Mary.

(3)を三つの state で時間的順序で表わしてみると(5)~(9)になる。

(5) He is not smoking.

(6) He begins to smoke.

(7) He is smoking.

(8) He finishes smoking.

(9) He is not smoking.

(5)(7)(9)が state であり、durative aspect で表現できる。そして(6)(8)が変化点で、それぞれ ingressive aspect, effective aspect である。このようにタバコを吸い始めてから吸い終えるまでの連続的な動作は三つの state と二つの変化点によって、表現され得る。また(4)を中心にして表わすと(10)~(14)になる。

(10) He doesn't love Mary.

(11) He begins to love Mary.

(12) He loves Mary.

(13) He comes to hate Mary.

(14) He doesn't love Mary. -

(13)は love の表現は困難であるから、hate を使うほうがよい。

2. aspect についての種々の考え方

aspect に関して、学者の立場は三つに分けられる。つまり aspect を文法範疇として認める立場と、全く認めない立場と、一部認める立場とである。全面的に認める立場の学者には Curme⁽²⁾, Poutsma⁽³⁾ がいる。Curme は native speaker の立場から、英語を綿密に研究している。そしてその方法論としては、意味中心主義で、それによって、その意味に対する英語表現を分類するというやり方で、相当な貢献をしている。故に aspect に対する論述は最も詳しい。また Poutsma は、理論より記述、記録、分類を重

視し、ありのままの英語を記述することを目指した。それ故 aspect を、種々の表現記述の分類の基準として、取扱っている。全く認めない立場の学者には、School grammar 全盛の時代に、ドイツ近代言語学を学び、それを英語学に取り入れ、科学文法の先駆者と言われている、Sweet と彼の説を撰取し、それを積極的に発展させ、又、日本英語学界に多大の影響を与えた Jespersen⁽⁵⁾ である。二人とも科学主義の名のもとに形態を重んじ、形態に表われていないものを文法範疇として認めることには大反対であった。aspect は全く認めず、imperfect (progressive, durative), perfect については tense として扱っている。Jesprsren と Curme との間の格論争という有名な史実もその立場の差異——形態主義と意味中心主義——から出たものである。第三の立場、すなわち、部分的に aspect を認める立場にはその頃としては進歩的な記述主義（共時的）をその文法体系の中心においた Kruisinga⁽⁶⁾ とその後継者である Zandvoort⁽⁷⁾ 等と変形文法の Chomsky⁽⁸⁾ 等である。つまり imperfect と perfect の二つを aspect として認めている。Chomsky (1965)⁽⁹⁾ は(15)のような、規則において aspect を採用している。

(15) Aux → Tense (M) (Aspect)

Tense → Present, Past

Aspect → Progressive, Perfect

本稿では、aspect の意味がある以上、その形態の有無にかかわらず、すべてを認める立場——Curme に近い立場——で論を進めてゆく。しかしその aspect feature の導入については、その限りでない。

3. aspect の三表現

aspect を表わすには種々の方法がある。

(16) I know him.

(17) He became a doctor.

(16) は durative aspect を、(17) は point action aspect を動詞の単純形で表わしている例である。

動詞の aspect feature について

(18) It began to rain.

(19) I continued to read the book.

(18) は point action aspect のうちの ingressive aspect が (19) は durative aspect が aspect verb によって表わされている。aspect verb には、この他 stop, finish, come to, burst out, 等がある。

(20) He is speaking English.

(21) Mary has just read the book.

(20) は durative aspect を進行形で、(21) は point action aspect のうちの effective aspect を完了形で表現している。このように統語論的に aspect を表現するものを aspect form と呼ぶことにする。英語においては以上三つの表現形式で aspect は表わされるが、すべての aspect がこれら三つの方法で表わされるとは限らない。次に個々の aspect について、その表現可能な形式とその制限等を調べてみよう。

4. 個々の aspect について

4.1 Durative aspect

durative aspect とは、時間的に引続いて行なわれている動作状態を表わしているものをいう。そして連続的变化に対する人の観念的断片である state を表わしている。durative aspect を表わす動詞の単純形には次のような制約が存在する。

(22) *I am hearing the music.

(23) I am listening to the music.

つまり(22)の hear は durative aspect を表わす動詞であるから、進行形になると非文になる。一方(23)のように、よく似た意味を表わしているにもかかわらず listen to は非文にならない。

(24) *Know that.⁽¹⁰⁾

(25) Learn that.

(24)のように命令文も非文になる。(22)(24)が非文でないような場合も存在するが、それは、それらの動詞に意味変化が起っていると考えられる。

- (26) *What I did was hear the music.
(27) What I did was listen to the music.
(28) *I persuaded John to know the answer.
(29) I persuaded John to learn the answer.
(30) *I remind John to hear the music.
(31) I remind John to listen to the music.
(32) *John heard the music carefully.
(33) John listened to the music carefully.

(26)~(33)のように durative aspect を示す動詞 (Lakoff (1966) では stative verb) には分裂文, Persuade 補文, Remind 補文, carefully 等の副詞と共に表われない。durative aspect を表わす動詞は次のようなものがある。

- (34) hear, see, know, believe, doubt, want, appear,.....⁽¹¹⁾

次に durative aspect を表わす aspect form について考察を進めよう。

- (35) I am reading the book.

(35)は am reading という進行形で durative aspect を表現している例である。さらに aspect verb も(36)のように durative aspect を表わし得る。

- (36) He continued to sleep for two days.

4.2 Point action aspect

point action aspect は state と state の間の変化点を表わそうとするもので、始点に焦点をあてるものが ingressive aspect で、終点が effective aspect である。point action aspect を表わす動詞の単純形には(37)のように durative adverb とは両立しない。

- (37) *He started for two hours.

しかし(38)のようにその否定は非文でない。

- (38) He didn't start for two hours.

この理由については、後ほど触れる。

又、point action aspect は aspect verb によっても表現可能である。

- (39) It stopped raining.

動詞の aspect feature について

(40) He began to smoke.

(39) は effective aspect で, (40) は ingressive aspect の例である。さらに aspect form によっても表わされる。

(41) She has just read the book.

つまり has read という完了形で, finish reading という effective aspect を表わしている。

4.3 Terminate aspect と Iterative aspect

terminate aspect とは, 動作そのものをひとまとまりとして, 全体としてみるものをいう。この aspect は最も中性的なものであり, これを表わすには, 動詞の単純形のみである。

(42) He swam at seven.

(43) *He loved Mary at seven.

(42) のように swam は time point の副詞をつけても文法的であるが, 一方 durative aspect の意味をもっている love は非文である。

(44) He swam for two hours.

(45) *He got up for two hours.

さらに(44)のように durative adverb をつけても文法的であるが, (45)のように point action aspect の意味の動詞は非文になる。

(46) He went to the station at seven. (terminate)

(47) He started for the station at seven. (ingressive)

(48) He reached the station at seven. (effective)

(47)(48) と比べて, (46) は駅に向って家を出たのが7時なのか, それとも駅に着いた時刻が7時なのか明確でない。(47) は家を出た時刻が7時であるから, ingressive aspect であり, (48) は駅に着いた時刻が7時であるから, effective aspect である。つまり terminate aspect は動作を一まとめとして, 抽象化したレベルで表わすものであるから, time point がはっきりしないのである。

次に iterative aspect とは繰り返し行なわれる動作を示すもので,

(49) He did it over and over again.

(49)のように副詞を重ねたり、

(50) He is always getting angry.

(50)のように always と進行形でも表わされる。その他種々の表現方法があるが、統一的説明は困難と思えるので、本稿ではこれ以上触れない。

この章をまとめとして、 aspect を含んだ動詞の単純形の性質を表にすれば次のようになる。

単 純 形 \ 形 式	進 行 形	durative adverb	time point
durative	不 可	可	不 可
point action	可	不 可	明 確
terminate	可	可	不 明 確

さらに aspect とその表現形式を表にすると次のようになる。

aspect \ 表現形式	durative	point action		terminate
		ingressive	effective	
単 純 形	love, know,...	start, become,...	reach, die,...	大部分の動詞
aspect form	進 行 形	不 可	完 了 形	不 可
aspect verb	continue, ...	begin, burst out...	stop, finish,...	不 可

5. aspect feature

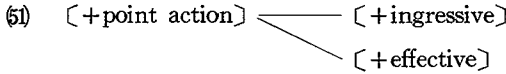
上で述べた三種の aspect の表現形式はともに同じような意味を表わしているのので、変形文法の枠組において、 aspect を動詞のもつ semantic feature の一種とするとより統一的な記述が可能となる。井上⁽¹²⁾ (1973) を除いては変形理論派内では、 aspect についての研究はほとんど見られない。本論ではこの semantic feature は生成意味論の中で考えられている。⁽¹³⁾

(50)のような aspect feature を認める。

(50) [+durative] [+point action]

そしてこれらの feature はお互いに打ち消しあうものではない。つまり

〔-durative〕=〔+point action〕とは限らない。そして〔+point action〕は⑤のように下位分類される。⁽¹⁴⁾



結局次の四種の feature を認めることになる。

⑥ 〔+durative〕, 〔+point action〕, 〔+ingressive〕, 〔+effective〕

ここで〔+ingressive〕か〔+effective〕を持っているものは必ず〔+point action〕を持っていないといけない。

動詞の単純形で, durative aspect や point action aspect を表わすものは aspect feature を持っていて, aspect form としての進行形は〔+durative〕を, 完了形は〔+effective〕の aspect feature を持っていると言うことができる。

③ He reads the book.

④ He is reading the book. 〔+durative〕

⑤ He has just read the book. 〔+effective〕

aspect feature を持っていない③を, ④のように進行形にすれば〔+durative〕が, ⑤のように完了形にすれば〔+effective〕が, それぞれ付加されたと考えることができる。又, ⑥⑦のように aspect verb も同様である。

⑥ It rains.

⑦ It began to rain. 〔+ingressive〕

このような aspect feature 導入によって, ⑧⑨の説明が可能である。

⑧ *John started for two days.⁽¹⁵⁾

⑨ John didn't start for two days.

つまり⑨の started の中の〔+point action〕と for two days が拒絶反応を起こすのである。それで⑨のように, 否定にすると, not はその〔+point action〕を⑩のように〔-point action〕に変える。

⑩ not 〔+point action〕→-〔+point action〕→〔-point action〕

それで, 〔-point action〕は for two days を受け入れる。

5.1 Aspect feature の組合せ

ここでは aspect feature の組合せ及び、その組合わせの制限について考えてゆく。まず単一動詞として aspect feature をもっているものを進行形、完了形にして、それぞれ〔+durative〕〔+effective〕を付加し、複数の aspect feature の総和の意味を調べてみる。

(61) *He is knowing the news.

既に述べたように(61)は非文になるが、これは(62)の制限が働いているからである。

(62) 〔+durative〕+〔+durative〕⇒非文

(63) He has known the news.

(63) は know が〔+durative〕をもっていて、それに〔+effective〕を付加した例である。これは(64)のように考えられる。

(64) 〔+durative〕+〔+effective〕⇒〔+durative〕

(65) He is dying.

(66) He is starting for the station.

同様に(65)(66)は(67)のように示される。

(67) 〔+point action〕+〔durative〕⇒近接未来

(68) He has died.

(69) He has got up.

(68)(69)のようなものは(70)のようになる。

(70) 〔+point action〕+〔+effective〕⇒〔+effective〕

次に aspect feature をもった動詞の単純形に aspect verb をそれぞれつけて、その総和の意味を調べよう。

(71) *He continued to know her.

(72) He continued to love her.

(73) 〔+durative〕+〔+durative〕⇒非文

(71)から(73)が言える。ここで(72)は love の中の〔+durative〕が消失した結果生じたもので、この現象については後ほど述べる。

(74) He began to love her.

動詞の aspect feature について

(75) He stopped loving her.

(74)(75)から(76)(77)が公式化できる。

(76) [+durative]+[+ingressive]⇒[+ingressive]

(77) [+durative]+[+effective]⇒[+effective]

この love も(72)と同様に [+durative] が消失して, aspect として中性になったものと思われる。

(78) *He continued to get up.

(78)は [+point action] をもった get up に [+durative] をもった aspect verb である continue をつけたものであり, (79)のようになる。

(79) [+point action]+[+durative]⇒非文

(80) He began to get up.

(81) He finished getting up.

(80)(81)のように [+point action] である get up にそれぞれ [+ingressive], [+effective] をつけると(82)(83)のようになる。

(82) [+point action]+[+ingressive]⇒[+ingressive]

(83) [+point action]+[+effective]⇒[+effective]

以上 aspect feature をもった動詞に, aspect form と aspect verb を付加し, 複数の aspect feature を調べたが, あまりにも adhoc の感がある。それは [+point action] の下位の feature である [+ingressive] と [+effective] をそのまま使用したことに原因があると思われるので, そのまとめとして [+ingressive] と [+effective] を使わず, [+point action] にまとめると次のようになる。

(84) Aspect form : a [+durative] 進行形

: b [+point action] 完了形

a. 1. [+durative]+[+durative]⇒非文

a. 2. [+point action]+[+durative]⇒[+point action]

b. 1. [+durative]+[+point action]⇒[+durative]

b. 2. [+point action]+[+point action]⇒[+point action]

(85) Aspect verb : a' [+durative] continue,...

: b' [+point action] begin,...

a'. 1. [+durative]+[+durative]⇒非文

a'. 2. [+point action]+[+durative]⇒非文⁽¹⁶⁾

b'. 1. [+durative]+[+point action]⇒非文

b'. 2. [+point action]+[+point action]⇒[+point action]

ここで注意すべきことは、二つの aspect feature が加算されて一つの何かの aspect feature になるように書かれてあるが、実はこれらは層をなして、同じ層に属しているのではないと考えられる。故に後から aspect form あるいは aspect verb によってつけ加えられる aspect feature の方が、前からある aspect feature よりも強力であるという結果が生じている。84の aspect form と85の aspect verb を比較すると、平行していることがわかる。この点が aspect feature を認める強力な根拠となっている。すなわち、[+durative] と [+point action] という全く反対の feature の結合は、許容されない。そして [+durative] 同志の結合も許容されず、[+point action] 同志の結合はその feature の意味を強める結果になっている。しかし84の a.2 と b.1 は特別の性質によるものであると思われる。つまり進行形は [+durative] をつけ加える作用のみならず、+α の作用が存在する。さらに84の b.1 は完了形の特徴、つまり [+point action] [+effective] を付加する以外に +α の効力をもっていると考えられる。この点から進行形、完了形を研究するのも価値があると思われる。

5.2 Aspect feature の変化

aspect feature をもっている動詞はある環境のもとで [+durative] [+point action] の aspect feature が消失して、中性化されることが決して少なくない。

86 He has loved her (once).⁽¹⁷⁾

87 He has loved her (for ten years).

have (has) loved は8687のように ambiguous である。つまり84 b.1 のように、87の love には [+durative] がある。

84 b.1 [+durative]+[+point action]⇒[+durative]

しかし、86の love は88が非文であるという理由から、すでに[+durative]が消失していると考えられる。

88 *He has known her once.⁽¹⁸⁾

89 He loved her at the moment he saw her.

89の love も [+durative] が消失している。またふつうは 90 のように aspect feature をもっていないが、91)のような時に [+point action] が現われる場合もある。

90 His words fell pleasantly upon our ears.

91 He fell asleep at the moment.⁽¹⁹⁾

92)93)のように、通時的立場からの aspect feature の変化は興味深い。

92 And Jesus *walked* in the temple in solomon's porch. Then came the Jews round about him, and said unto him,...

(*Authorized Version*, 1611)

93 Jesus *was walking* in the temple precincts, in solomen's Cloister. The Jews gathered round him and asked:...

(*The New English Bible*, 1961)

92 では walk で、漠然と [+durative] を表現していたのが、93) で was walking となり、aspect form である進行形でその aspect feature を表わすようになった。AV の時代には、まだ十分進行形が確立していなかったもので、単純形で [+durative] を表わしている例がたいへん多い。これも単純形の中の [+durative] の消失の例とみなしてもよいであろう。

5.3 aspect feature の応用

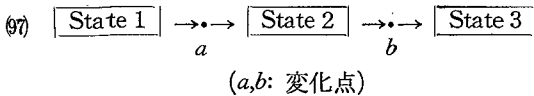
94 He went to the station at seven.

95 He reached the station at seven.

96 He started for the station at seven.

94は、7時が駅へ着いた時刻であるのか、家を出た時刻であるか明白でないが、95の reach は駅に着いた時刻であり、96の start は、家を出た時

刻であることがはっきりしている。すなわち、go には aspect feature がなく、中性的なものであり、reach, start には〔+point action〕があることがわかる。これを三つの state (〔+durative〕をもったもの) と二つの変化点 (〔+point action〕をもったもの) で考えてみると⑨7のようになる。



そしてこれを時間の経過に従って言語化したものが⑨8～(103)である。

- ⑨8 He is not at the station. —————→State 1
 ⑨9 He begins to go to the station }
 (100) He starts for the station. } —→変化点 a
 (101) He is going to the station. —————→State 2
 (102) He reaches the station. —————→変化点 b
 (103) He is at the station. —————→State 3

それで、結局 go, start, reach を aspect feature を使って関係づけて表示すると(104), (105)になる。

- (104) start [GO, +ingressive]⁽²⁰⁾
 (105) reach [GO, +effective]

6. 結 び

人は言語によって、現実世界を観念的に切り取って認識している。そしてその現実世界は時間の経過に従って、連続的に移り変わってゆき、動詞は特にその変化を主に表現しようとする。つまり外的世界を、観念的に State に切り取っている。そしてその State と State との間には変化点が存在し、動詞はその State を表現するものと、その変化点を表現するものに分けられる。しかしその aspect を動詞の一つの semantic feature とするには、(1)その aspect feature の現われ方が多種多様であること、(つまり、動詞の単純形, aspect form, aspect verb 等)、そして、(2)それらの形

態の間には意味の差異があること、さらに、(3)その aspect feature は不安定で変化しやすい、という種々の理由で、直感的に、一般に認めるのに難色を示す人が多いようである。しかし aspect feature を導入すると、(1)進行形、完了形の aspect form と aspect verb との関係化が可能であり、(2)進行形、完了形の派生的意味の考察も不可能でなく、さらに(3)進行形、完了形と aspect をもった動詞との統語論的制約も aspect feature の制約としてとらえることができるし、(4) aspect verb と aspect をもった動詞との制約も同様である。さらに (5) He didn't start for two hours. のような文法的文の説明ができるようになった。そして、(6)残された問題として aspect feature の不安定さから、その移動の規則の定式化も可能であると思われるし、aspect feature の種々多様な表現形式も、その feature の存在の上で、より統一的説明が可能である。それにはまだ相当厳密な研究が必要であろう。

1973年 6 月

注

- (1) Curme. *Syntax*.
- (2) Curme. *Ibid*.
- (3) Poutsma, *A Grammar of Late Modern English*.
- (4) Sweet, *New English Grammar*.
- (5) Jespersen, *Modern English Grammar*.
- (6) Krusinga, *A Handbook of Present-Day English*.
- (7) Zandvoort, *A Handbook of English Grammar*.
- (8) Chomsky, *Aspects of the Theory of Syntax*.
- (9) Chomsky, *Ibid*. have-en, be-ing の形式。
- (10) Lakoff, 1966, "Stative adjectives and verbs in English." *Mathematical Linguistics and Automatic Translation*. Report NSF-17. durative aspect をもった動詞の制限については、すべて上記の論文を参考にした。
- (11) active の動詞はすべて durative でなく、non-active な動詞がすべて durative であると限らない。また(8)に平行して、同じような意味を表わすものが必ずしも durative であると限らない。たとえば durative でないもの: listen to, look at, learn, watch, sleep, promise,.....
そしてこその違いは意志性の有無にも関係があるように思われるが、ここではこれ以上触れない。
- (12) 井上和子, 1973, 「変形文法と日本語その22」英語教育 Vol. XXII no. 5. 例外

として、上記の論文においては、日本語の中に aspect feature を導入している。

- (13) 生成意味論は、深層構造の出力を意味部門への入力とする解釈意味論と違って、意味表示から直接変形によって、表層構造を導こうとする理論である。
- (14) Lakoff (1970) においては、この [+ingressive] と酷似している feature として [+inchoative] という feature を導入しているが、これは become のような意味に限られるようである。Lakoff, 1968, "Some verbs of change and causation" *Mathematical Linguistic And Automatic Translation*. Report NSF-20. Lakoff, 1970, *Irregularity in Syntax*.
- (15) Smith, 1969, "The semantics of negation," *Indiana University Linguistic Circle*.
- (16) (74) He begins to love her.
 (75) He stopped loving her.
 (74), (75) の love は既に [+durative] が消失していて、それに [+point action] がついたものと考えられる。日本語では「愛している」+「はじめる」は非文で、「愛す」+「はじめる」が文法的であると同様である。つまり、日本語の場合には「愛す」に [+durative] の形式素である「している」がついて、「愛している」になるのであって、「愛す」には [+durative] はない。
- (17) cf. He has just loved her.
- (18) know が [+durative] のない意味では可能である。
- (19) 植木五一, 「動詞 (下)」研究社
- (20) この場合、現実の go ではなく、抽象的なものである。現実の go は come との比較において、複雑な性質を有する。come と go については、次の論文参照。Fillmore, 1966, "Deictic categories in the semantics of 'come'" *Foundations of Language*.
 Fillmore, 1971, "Coming and going" unpublished paper.
- (21) 正確に言えば、認められていないのではなく、aspect についての言及は、ほとんどなく、aspect feature の存在についての研究はまだなされていない。